

知財産敷童（ざしきわらし）語り部

『地域版デザイン経営の挑戦』

山形県知財総合支援窓口
事業責任者 大通 薫

経済産業省・特許庁による『「デザイン経営（注1）」宣言（注2）』の発表を踏まえ、本県では、昨年、(株)IP ディレクションの土生哲也氏を講師として、県内4地区で、「デザイン経営と知的財産」の理解促進を図るセミナーと、固有の経営資源である知的財産を掘り起こし、“自社らしさ”を言語化・表現するワークショップを行いました。

このワークショップには、様々な業種の方々にご参加いただき、自社らしさ（独自性）を改めて考えるワークの中で、自社固有の経営資源を知的財産として意識（言語化）し、また、グループディスカッションにより、“自社らしさ”について、相互に新たな気づきが得られました。

もともと、山形県は、大都市圏に比べ小粒ですが歴史の長い老舗企業が多く、また、各々の企業が、熱い思いと「語れる」エピソード等を有しており、自社らしさを掘り起こしていく中で『地域』との関係性の深さなども見えてきました。

今年度は、東北経済産業局の中小企業等知的財産活動支援事業費補助金を活用し、心豊かに暮らせる持続可能な山形を目指して、“地域を一つの経営体”と捉えて、多彩な経営資源を活かして、“新たな価値”をともに生み出し、地域課題を解決する、そして、未来の明るい山形を共に創っていくプロジェクトを始動します。

具体的には、もともと持っている“自社らしさ”を、山形固有の経営資源としてWEB上にマッピングして発信し、新しい仲間や価値を創るきっかけとします。
また、デザイン経営の手法を取り入れて、掘り起こした“自社らしさ”を結集して、地域課題に対して、新たな価値を共創することで、ビジネスにより解決していくアクションに結び付けていきます。

今回のプロジェクトは、全国同じように展開されてきた、工場誘致やインバウンドなど、外部の力に依存する経済活性化ではなく、山形独自の地域らしさ（経営資源）を活かしながら、「地域内で価値と経済が循環し、地域を豊かにする仕組みづくり」を目指すチャレンジです。“地域単位”でのデザイン経営のアプローチによる「地域活性化モデル」として提案できるよう、関係機関と協力しながら、取り組んでまいります。

<参考>

注1：特許庁はデザイン経営を推進しています（特許庁ホームページ）
https://www.jpo.go.jp/introduction/soshiki/design_keiei.html

注2：『「デザイン経営」宣言』2018年5月23日（特許庁ホームページ）
<https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/kenkyukai/kyousou-design/document/index/01houkokusho.pdf>

※配信元：東北地域知財戦略本部事務局（東北経済産業局知的財産室）

※本コラムの無断転載を禁じます。